



insource
株式会社インソース

対象者

- ・ 組織の業務改善やDX推進担当者の方
- ・ 業務効率化やフローの見直しを検討している非エンジニアの方

よくあるお悩み・ニーズ

- ・ 生成AIで何を改善できるのかイメージできない
- ・ 業務フローが整理されておらず、生成AI導入の準備が整っていない
- ・ 生成AI活用を進めたいが、展開・定着の進め方がわからない

研修内容・特徴

生成AIを安全かつ効果的に業務に組み込むための考え方を、1日間で身につけられる研修です。自身の業務を洗い出し、生成AIを組み込みやすい作業を見つけるワークを通じて、組織での導入イメージを具体化します。最後には、リスクを考慮した自部署での生成AI活用のシナリオを作成し、自走できる計画へと落とし込みます。

この研修ではPCおよび生成AIを使用します

【オンライン型開催】

事前に使用する生成AIのアカウントのご準備をお願いします。
ChatGPT、Copilot、Geminiなどの対話型生成AIであれば、どのツールでも問題ありません。
安定して稼働できるサービスをご用意ください。
※講師はCopilotを使用して説明します

到達目標

- ① 生成AIを活用できる業務とできない業務を見極められる
- ② 業務に組み込める実践的な生成AI活用フローとプロンプトを設計できる
- ③ 安全性と効果を両立し、現場で成果を出せる生成AI活用を継続的に運用できる

研修プログラム

内容	手法
1. 生成AIを活用した業務改善の考え方 (1) 業務改善が求められる背景 (2) 業務改善における3つの視点 ①業務プロセスの視点 ②人の視点 ③ツールの視点 (3) 業務改善の手法の比較 ①生成AI ②RPA（定型作業を自動化する仕組み） ③その他のツール（業務アプリケーション） 【ワーク】各業務に適切な手法を選択する (4) 生成AIを使った業務改善の流れ ①業務を分解し、可視化する ②人が行っていた作業を生成AIに置き換える ③組織全体で生成AIを活用する	講義

内容	手法
2. 生成A I 活用の第1ステップ～業務を可視化する (1) 業務を作業レベルに分解する (2) 業務に関わる部署、人物を洗い出す (3) 判断や確認が発生する工程を整理する (4) 業務の工程全体を1つの表に整理する (5) フローチャートの形に落とし込む 【ワーク】自組織の中で改善したいと思う業務の一つを選び、業務を可視化する	講義 ワーク
3. 生成A I 活用の第2ステップ～手作業を生成A I に置き換える (1) 生成A I に置き換える作業を見つけるコツ (2) 業務フローから生成A I 適用ポイントを特定する (3) 生成A I 活用を前提に業務を組み替える 【ワーク】手作業を生成A I に置き換えた業務フローを作成する (4) 生成A I に任せるための入力・出力の状態を定義する (5) プロンプトエンジニアリング～生成A I への指示出しを工夫して回答の精度を高める 【ワーク】生成A I の回答精度がプロンプト（A I への指示文）によって変化することを体感する	講義 ワーク
4. 生成AI活用の第3ステップ～組織に展開する (1) リスク管理 ①AIが事実と異なる情報を作り出すハルシネーションのリスク ②情報漏えいのリスク ③著作権侵害のリスク 【ワーク】生成AI活用における想定リスクと対策を検討する (2) 品質管理 (3) 効果測定で生成AI活用を定着させる (4) 生成AI活用を現場に展開するステップ 【ワーク】生成AI活用における1か月のアクションプランを作成する	講義 ワーク
5. まとめ	ワーク

引用

研修実施会社 株式会社インソース

https://www.insource.co.jp/bup/bup_ai-process-improvement.html